

## 地蔵盆近づくと

# みんなのパワーで盛り上げましょう

今年も地蔵盆が近づいて来ましたが、当番町の中之町の皆さんはもちろん、当番でない町の皆さんも提灯吊り等ご苦勞様です。

考えて見ますと、一昔前ほどではなくても、古市の街並みが一年の内最大の人出でひと時の賑わいを取り戻す唯一のイベントが『二十四日盆』ではないでしょうか。

先日各戸に配布されました商工会作成のチラシの様に、今年はパワーアップ事業の一環としてこのお祭りを盛り上げようと様々な企画が進められています。また、波賀野新田自治会でもパワーアップ事業の一つとして大変力を入れて取り組んでいらっしゃって、街道筋全体を会場にしたお祭りが展開できるようです。

古市の皆様には、身内の方や知人・友人宛に招待状をお出しいただくようお願いし取り組んで頂きましたから、お祭りにご参加下さる方の数も近年にたく増えるのではないかと期待もしているところです。

猛暑の夏の終りの一夜を、古市の住民パワーを発揮して、古市伝統の『二十四日盆』を盛り上げようではありませんか。

## いい音色の風鈴が完成

～地蔵盆にはそれぞれのお宅の軒先などに吊るして下さい～

七月二六日(土)に五十人余りの方達の参加を得て絵付けをした風鈴を、王地山製陶所に預け、ガス窯で焼いて頂く様に依頼しておりましたが、先日焼きあがりましたから、八月十八日の夜、前回の参加者を中心に二十数人で下げ糸や舌、短冊をつけて完成させました。

磁器ですが、金属製の風鈴と遜色のない金属音を響かせて涼感を呼ぶ仕上がりになっています。

また、吊り下げた短冊には「ふるいちでかんしょ節」なども書かれています。

絵付けや仕上げにご参加頂いていないお宅にも一個ずつの風鈴をお届けしていると思います。ぜひ、地蔵盆の前日からそれぞれのお宅の軒先に吊るして下さいますようお願い致します。

なお、この風鈴は県のパワーアップ事業への補助金で作製していますから、自治会の所

有物と言つことになります。しかし、保管はそれぞれのお家でして下さい。そして、来年の地蔵盆にも軒先に吊るして頂きたいと考えています。よろしくお願ひします。

**【連絡事項】** 万一風鈴が届いていない場合は、自治会役員まで、その旨お申し出下さい。

絵付けには参加されても、仕上げ作業にご参加でない方で、ご自分の描かれた絵柄と違う場合があるかと思ひます。地蔵盆の際に軒先に吊るされているのを見て、直接話し合せて交換等をして下さい。



風鈴仕上げ作業風景

# 飾り台も出来上がりました

今後の活用を!!

古市焼の作品は、現在製陶所で素焼きの作業をして頂いております。近々には素焼きが出来て、絵付け等の二次作業をする事になって思っています。

その作品が出来上がった際に、その作品などを置く黒竹製の飾り台も、最終の仕上げ作業が18日の風鈴の仕上げの後で行なわれて完成しました。〔下の写真〕

この台の作成に当たっては、黒竹の入手から、約1ヶ月に亘って、寸法に切ったり、一定の箇所穴をあけたり、適当な材を組み合わせたりと多くの手間隙のかかる準備のため、あの猛暑の中を、今北眞司さんを中心に有志の方々がご尽力下さいました。ありがとうございました。



今後は、製陶作品を飾るだけでなく、生け花や植木、ご家庭にある逸品等の展示など様々な機会に活用して頂ければと考えています。(この飾り台は、全戸には配布されていません)



飾り台の組み立て作業(8月9日)

## 風鈴の歴史

風鈴の起源は中国にあります。しかしその用途は占いにあったそうで、竹林に提げて風の向きや鳴り方によって物事の吉凶を占う道具として使われ、「占風鐸」(せんふうたく)と呼ばれていました。

日本には、鎌倉時代に仏教と共に伝わったと言われ、最初は日本でも魔よけとして用いられていた様で、お寺のお堂の四隅に掛けられている風鐸(ふうたく)がそれだと言われています。風鐸がガララン、ガラランと鳴る音を魔よけにしたもので、その音が聞こえる範囲に住む人々は災いに遭わないと言われていました。「風鈴」と名付けたのは鎌倉時代の僧、法然上人だと言われ、当時は「風鈴」と書いて「ふうれい」と言ったようです。

その後、貴族社会で風鈴を縁側に提げて、外から疫病神が屋敷内に入るのを防ぐために使われました。

ところで、現在の日本には、材料、形状等の違う様々な風鈴が作られ、夏の風物詩として多くの人々に愛されています。

風鈴は、普通、金属やガラス・陶磁器などで作られた鐘の様な形状のものの中に、舌(せつ)と呼ばれるものが吊り下げられ、それに短冊などを結びつけて、短冊が風に揺れると舌が鐘に当たって音が出る仕組みになっています。

鐘の形のものの代わりに、金属製やガラス製の

長さの違うパイプを舌の周りに吊り下げたものも作られ、パイプの長さや太さの違いで音程の違う音を出すものもあります。

### 常設立て札も作成・ライトアップも

古市の重要文化財とも言える、常夜灯と道標については、外来の人たちにも興味や関心を持ってくださる方があるようです。そこで、これら二つの遺産に関して説明した立て札を立てようと言う事になり、現在、藤田宣彦さんが墨で書いて下さっているところです。また、ライトアップも行なわれます。

その他に、上之町の常夜灯から、横町の大石地藏尊までを写真と共に紹介したパネル十二枚も、実行委員会広報担当で作成しました。今後、イベントなどの際に掲示して、古市の文化遺産を紹介するのに使います。



風鈴の完成を喜ぶ参加者